
月光に煌めく華

遠野 秋桜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

月光に煌めく華

【コード】

N0354Q

【作者名】

遠野 秋桜

【あらすじ】

月光の中、想う二人の少女。紅い終焉が、全てを包む夜に。

月光が地を白銀に染め上げようとするかのように、光を投げかける。その美しい光にただ一つ、そぐわないものがある。

私、そのものだ。

私の後ろに月の光は届かない。私の形に切り抜かれた闇は、永遠に相容れない陰陽のように、善悪のように、妥協も融合もしない。

私はただ、独りになりたかった
何物の混入をも受け付けない
純粹な闇、純粹な光のように。

「楓」

振り向かなくてもわかる、桜の声。何、と振り向こうとする。だが桜はそれを許してはくれない。私をホールドすると、そのまま私の右手にあるナイフを奪いとる。

「どうして……」
「私は、楓を失いたくないの。もうお互い以外に失うものなんて、一つもない……。」

何かを楓を奪おうとするなら、私はそれが神であっても容赦しない。楓を守るためなら私はなんだってする」

ああ桜、どうしてあなたはそんなに純粹なの？ 私の存在のために……

私は無理矢理桜の身体を剥がすと、ナイフを奪い返す。そしてナイフの切っ先を、自らの心臓に向ける。そして突き刺そうと思いきり引いた瞬間、

「駄目っ！」

肉を貫く重い感触。だが、襲いかかってくるはずの痛みは感じなかった。

「だ、め……」

私の心臓とナイフの間に、桜が割って入ったのだ。私は桜の身体を抱くように身体の向きを変えると、ナイフを引き抜いた。

柄元まで桜の血に染まったナイフ。その美しさ、神々しさは神聖な祭器を思わせる。引き抜いた箇所からは、桜の血が一輪の紅い花のように撒き散らされる。桜を彩る華も、桜に降り注ぐ月光も、互いに混じりあうことなくその美しさを競い合う。

「どうして、そんなに綺麗なの？ 本当にもう、何もなくなってしまう……」

「
最早命のない桜の身体に、私は呟いた。桜の血が、私と桜を染めてゆく。」

秋になると紅く色づく、桜と楓。

その色の意味するところは……終焉。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0354q/>

月光に煌めく華

2011年1月12日21時43分発行